

道路事業 再評価

東北中央自動車道 米沢～米沢北

平成25年10月18日
国土交通省 東北地方整備局

1. 事業の目的と概要 (1)

再評価実施後3年経過

○事業目的

- ・米沢～米沢北間は東北中央自動車道の一部を形成
- ・米沢市街地における国道13号の交通渋滞緩和及び交通事故軽減
- ・冬期の速達性・安定性向上による地域医療活動支援
- ・広域ネットワーク形成による産業振興

○計画概要

起終点 : 自 : 山形県米沢市万世町
 至 : 山形県米沢市窪田町

延長 (開通済) : 9.0 km (- km)

幅員 : 13.5 m

道路規格 : 第1種第2級

設計速度 : 100 km/h

事業化 : 平成15年度 (直轄高速方式移行)

都市計画決定 : 平成7年度

用地着手 : 平成19年度

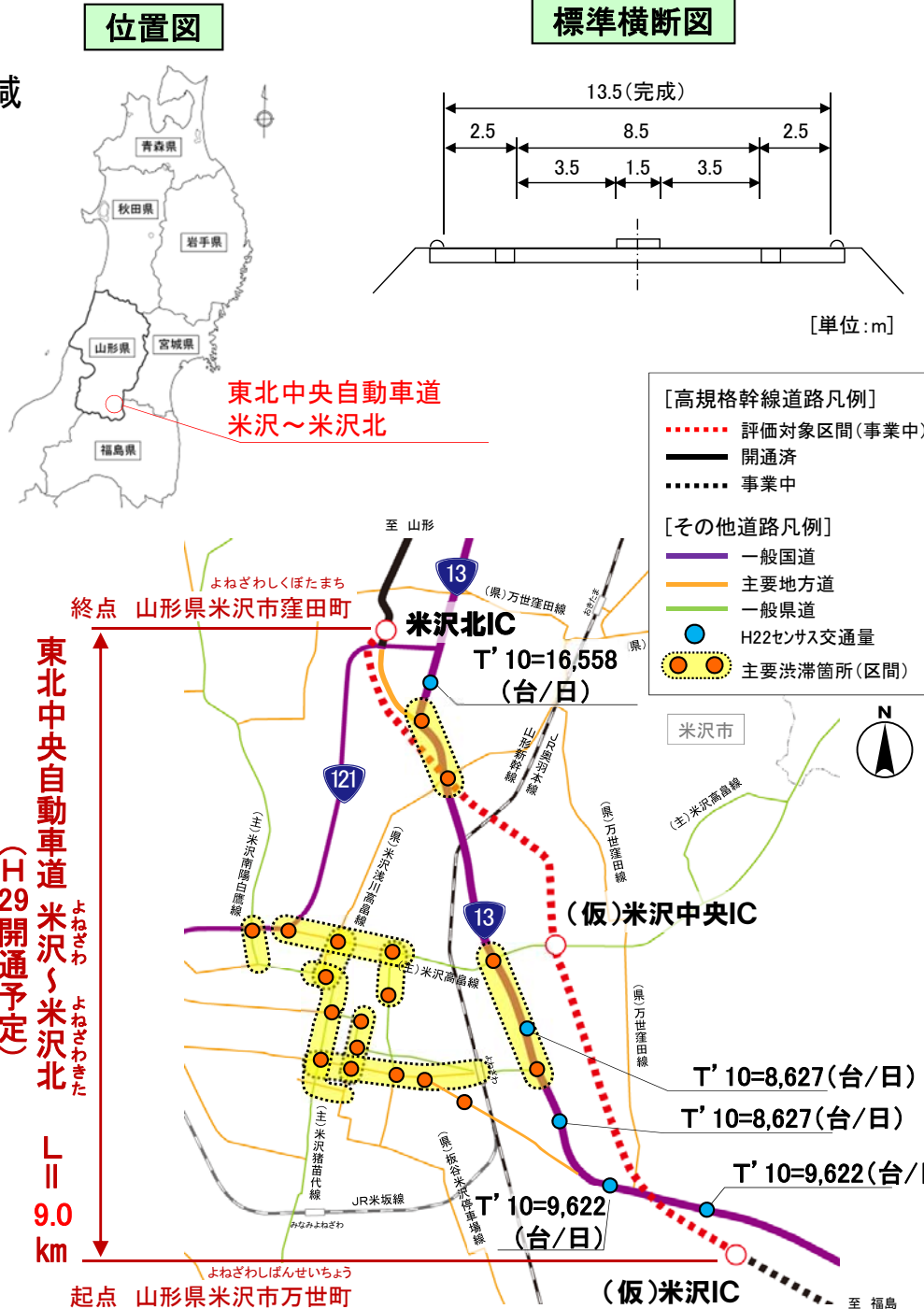
工事着手 : 平成20年度

事業費・進捗率

	全体事業費 (うち用地費)	執行済み額 (うち用地費)	全体進捗率 (用地費)	H22再評価時 (用地費)
完成	334億円 (95億円)	201億円 (74億円)	60% (78%)	334億円 (95億円)

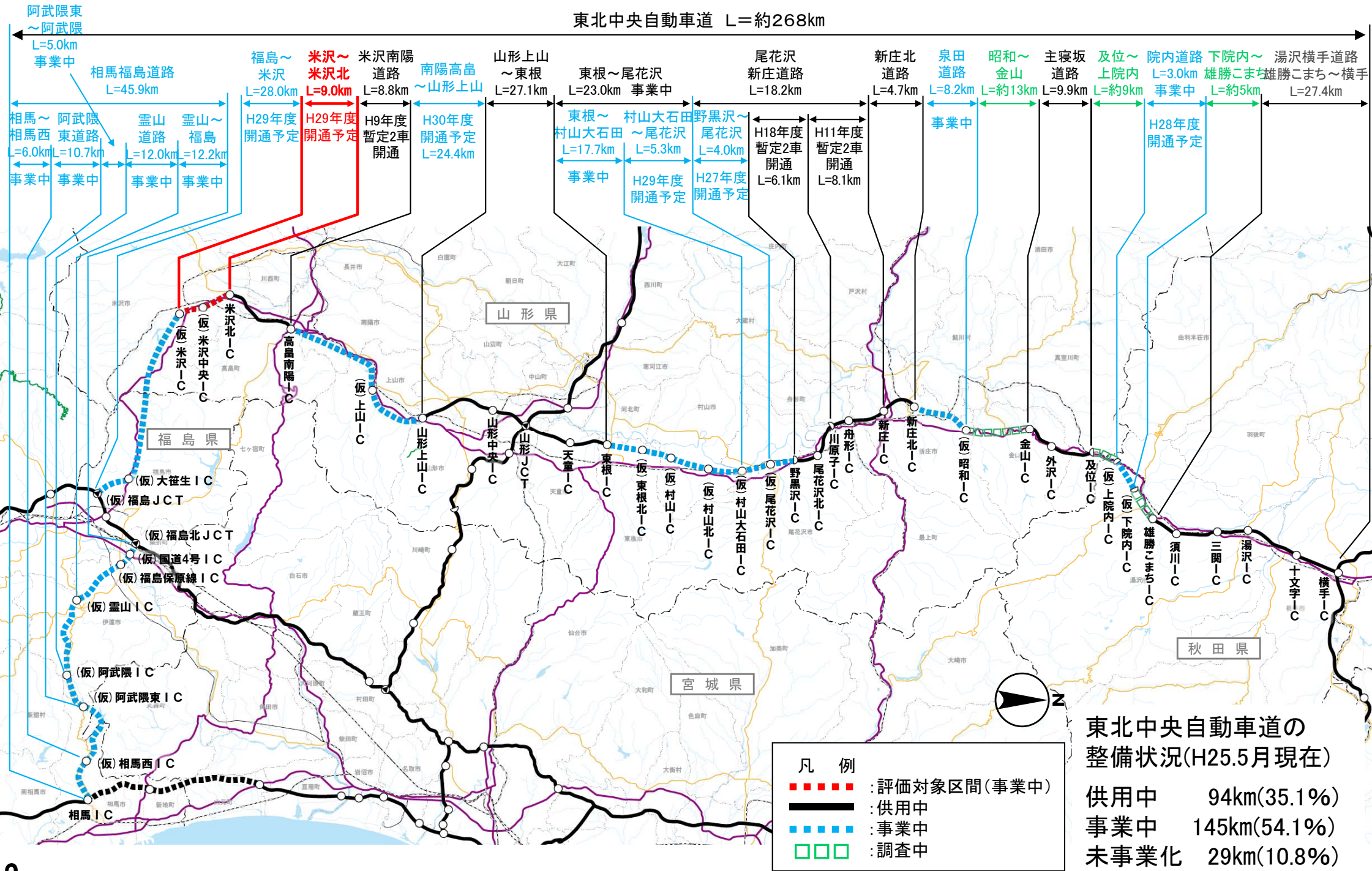
(仮)米沢中央IC考慮時事業費

完成	338億円 (96億円)	201億円 (74億円)	59% (77%)	
----	-----------------	-----------------	--------------	--



1. 事業の目的と概要 (2)

東北中央自動車道 L=約268km

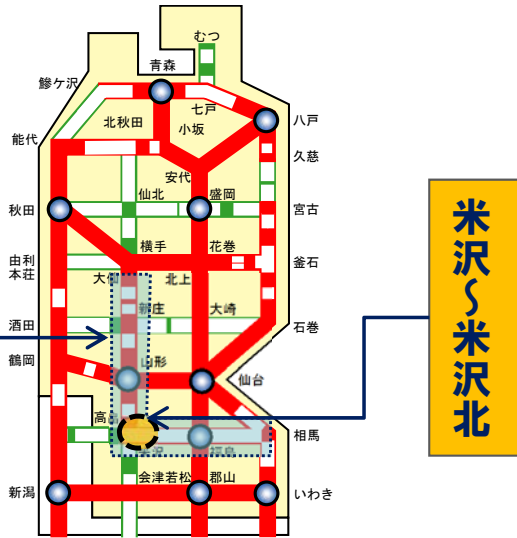


2. 事業の必要性に関する視点（事業を巡る社会情勢の変化1）

- ◆東北中央自動車道は、福島県相馬市より山形県内陸部を縦貫し、秋田県の主要都市へ繋がる重要な路線である
- ◆山形県道路中期計画において、米沢～米沢北を含む東北中央自動車道は「山形中央交流軸」に位置付けられ、新たな産業立地、広域観光等の創出・展開への期待、医療・災害時の観点からも重要視されている
- ◆山形県は高規格道路の整備率が59%と他県に比べて低く、広域交通ネットワークの確立が課題となっている

▼ 格子状骨格幹線道路ネットワーク (H25.9)

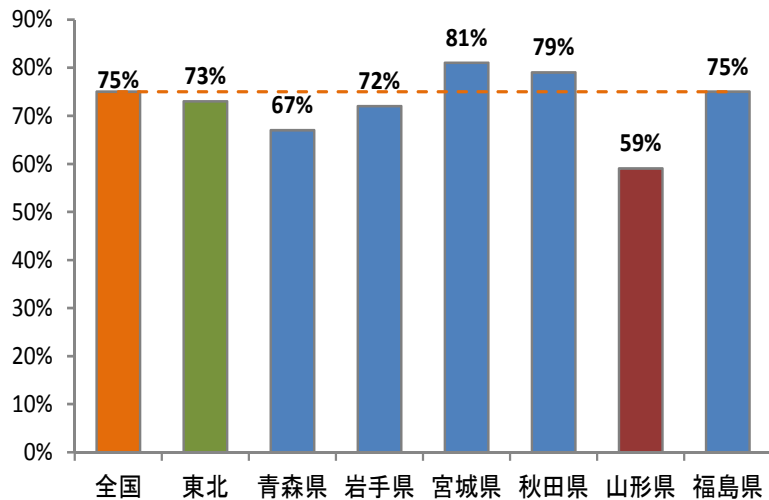
東北中央自動車道



米沢～米沢北

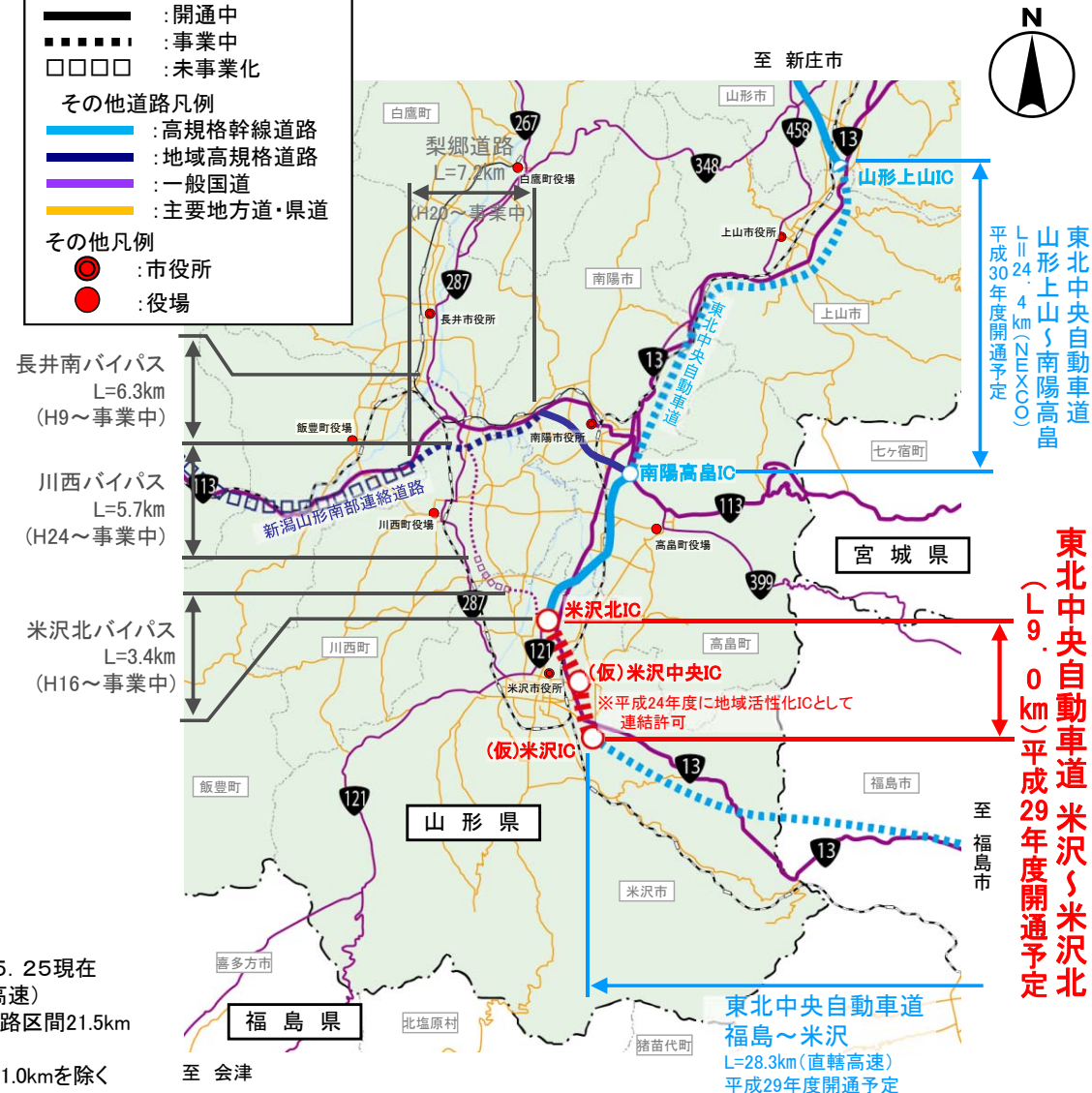
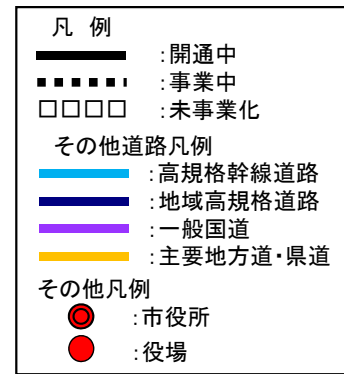
	開 通	未開通
高規格道路		
地域高規格道路等		

▼ 高速道路整備率



※全国の整備率はH25. 5. 25現在
 (東北地方整備局、全高速)
 ※青森は、みちのく有料道路区間21.5kmを除く
 ※山形は、月山道路区間21.0kmを除く

▼ 置賜地方の高規格幹線道路整備状況



東北中央自動車道
 山形上山～南陽高島
 L11.4km (NEXCO)
 平成30年度開通予定

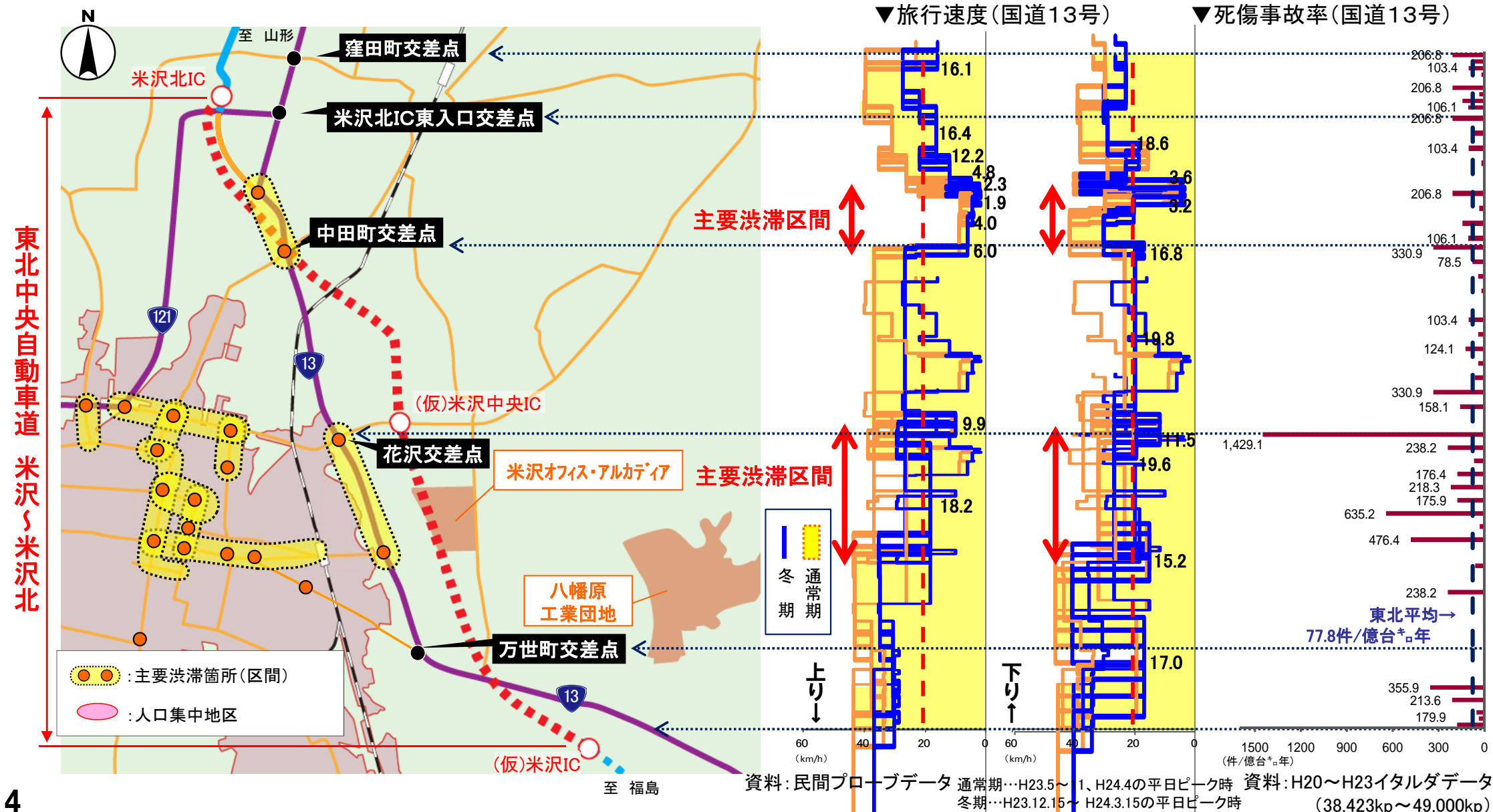
東北中央自動車道 米沢～米沢北
 (L9.0km) 平成29年度開通予定

2. 事業の必要性に関する視点（事業を巡る社会情勢の変化2）

◆東北中央自動車道に並行する国道13号には、冬期速度低下を要因とする主要渋滞箇所（区間）が存在する上、直轄国道平均死傷事故率を上回る箇所も多数存在

高規格道路ネットワークの形成により、適正な交通分担が図られ現道の快適性・安全性向上に期待

■混雑を示す速度
「道路交通情報センター」や「国家公安委員会」、「警視庁」等における混雑判定基準速度として、「20km/h以下」の基準を用いている



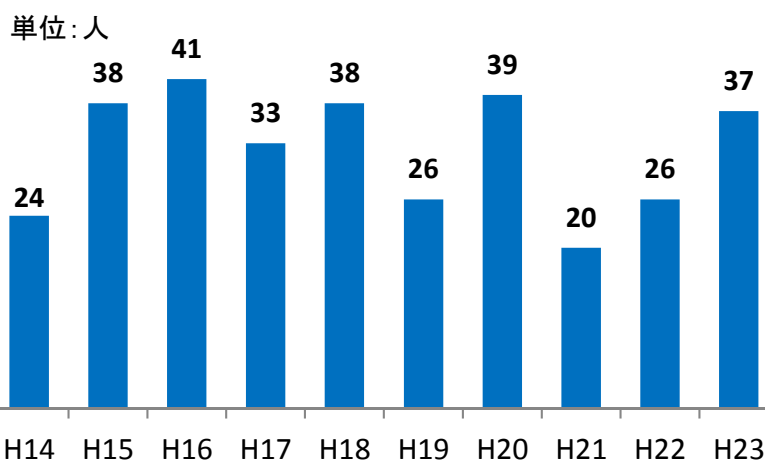
東北中央自動車道
米沢～米沢北

2. 事業の必要性に関する視点 (救急医療アクセス向上便益の試算)

- ◆ 第三次救急医療機関である置賜総合病院は、置賜地域各地からの救急患者を受け入れており、第二次救急医療機関が複数立地する米沢市内からも救急患者を受け入れている
- ◆ 通常期は主に国道287号を利用した通院・搬送であるが、降雪期においては堆雪時の幅員狭小等による速度低下、路面状況の悪化に伴う揺れ等による患者への負担を考慮し、国道13号・113号が多く利用されている

高規格道路ネットワークの確保による一層の速達性・安定性向上が期待

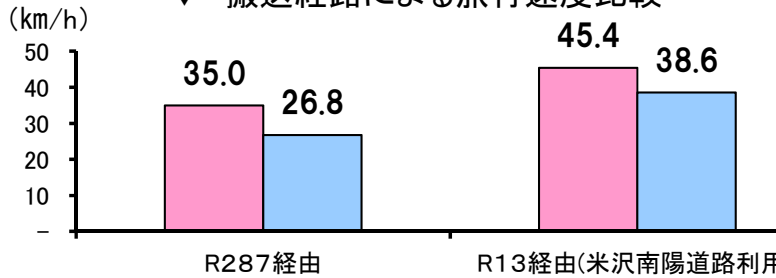
▼ 米沢市から置賜総合病院への救急搬送人数推移



資料：置賜地区救急医療対策協議会救急統計資料

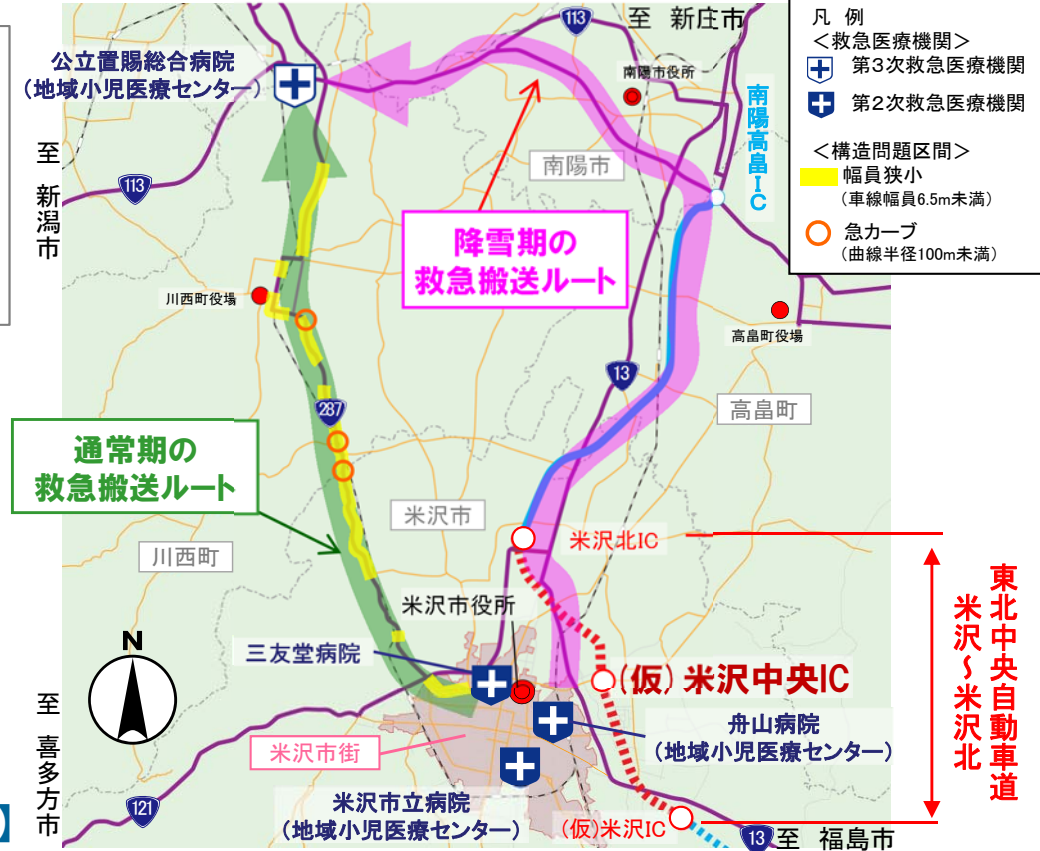
○ 救急医療アクセスの向上効果による便益は約3億円と試算
(全線開通から50年間分の現在価値換算値)

▼ 搬送経路による旅行速度比較



平均速度：平日12時間平均
通常期 H24.10
降雪期 H25.1

▼ 置賜総合病院への搬送経路



東北中央自動車道
米沢～米沢北



【利用者の声】

- 国道287号はカーブが多く気を遣う(40代女性)
- 国道287号沿いの田んぼ付近は冬場凍結するので気を付けている、ホワイトアウトにも注意している(60代男性)
- 冬期の置賜総合病院への搬送には、確実に除雪されている国道13号を利用する
- 一般道路より速達性・安定性が確保できる中央道の整備に期待している (置賜広域行政事務組合消防本部)

2. 事業の必要性に関する視点（事業を巡る社会情勢の変化4）

- ◇(仮称)米沢中央ICは、米沢オフィスアルカディアや上杉神社等、米沢市内の産業・観光拠点への円滑なアクセスにより、産業発展の支援、観光促進等の地域活性化を図る目的で山形県知事が連結許可を受けたものである
- ◇米沢市では、東北中央自動車道の開通による輸送面での改善を見据え、企業誘致を強化する取り組みを進めている

米沢中央ICの整備により、米沢～米沢北の利便性向上が図られ、産業・観光振興に寄与するものと期待



東北中央自動車道
米沢～米沢北

【地元の声】

- 高速道路沿線という地域条件は企業誘致の面で有効
 - 東北中央自動車道の開通による米沢市内への企業進出に期待
 - 開通を見据えた誘致活動の強化に取り組んでいる。
- 米沢市産業部商工観光課 (H25.6.ヒアリング)

▼米沢市における企業誘致助成制度の拡充を伝える記事

米沢市、2工業団地の未分譲地

企業誘致へ助成拡充

取得後 賃貸借制度も導入

米沢市は、中小企業振興策の一環として、市内の未分譲地を積極的に活用し、企業誘致を図る。特に、東北中央自動車道の開通を見据え、企業誘致の面で有効な地域条件を活かす。また、取得後の賃貸借制度も導入し、企業の進出を促進する。この取り組みにより、米沢市の産業発展と観光振興に大きく貢献する見込みである。

2年ほど前、米沢市は、市内の未分譲地を積極的に活用し、企業誘致を図る。特に、東北中央自動車道の開通を見据え、企業誘致の面で有効な地域条件を活かす。また、取得後の賃貸借制度も導入し、企業の進出を促進する。この取り組みにより、米沢市の産業発展と観光振興に大きく貢献する見込みである。



資料：山形県観光情報総合サイトHP

資料：山形新聞 (H25. 9. 21)

3. 事業の必要性に関する視点（事業の投資効果）

●費用便益比(B/C) 全体B/C=1.1 残事業B/C=2.7

※下表の数値は、地域活性化IC整備も考慮した金額を記載

基準年(平成25年度)における現在価値換算した金額を記載

計画交通量(平成42年度) 東北中央道(米沢～米沢北)=10,700台/日

【全体】

	基本ケース	感度分析					
		交通量変動		事業費変動		事業期間変動	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+20%	-20%
費用C(現在価値)	356	356	356	368	344	355	357
事業費(億円)	325	325	325	337	313	325	326
維持修繕費(億円)	30	30	30	30	30	29	31
便益B(現在価値)	400	429	367	400	400	382	418
走行時間短縮便益(億円)	294	317	270	294	294	281	308
走行経費減少便益(億円)	69	73	63	69	69	66	72
交通事故減少便益(億円)	37	39	34	37	37	35	38
費用便益比 B/C	1.1	1.2	1.0	1.1	1.2	1.1	1.2

※米沢～米沢北のみで算出した費用便益比

全体B/C =1.1
残事業B/C=2.7

【残事業】

	基本ケース	感度分析					
		交通量変動		事業費変動		事業期間変動	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+20%	-20%
費用C(現在価値)	150	150	150	162	138	149	152
事業費(億円)	120	120	120	132	108	120	121
維持修繕費(億円)	30	30	30	30	30	29	31
便益B(現在価値)	400	429	367	400	400	382	418
走行時間短縮便益(億円)	294	317	270	294	294	281	308
走行経費減少便益(億円)	69	73	63	69	69	66	72
交通事故減少便益(億円)	37	39	34	37	37	35	38
費用便益比 B/C	2.7	2.9	2.4	2.5	2.9	2.6	2.7

平成22年8月に公表した「将来交通需要推計の改善について」にて検討することとしていた推計手法の改善(第二段階)を反映した将来OD表に基づきB/Cを算出

○純現在価値(ENPV) 【全体】44億円 【残事業】249億円

○経済的内部収益率(EIRR) 【全体】4.6% 【残事業】12.9%

●前回再評価時の費用便益比(B/C)・計画交通量

【前回再評価時のB/C】 【全体】0.8(費用314億円、便益254億円) 【残事業】1.1

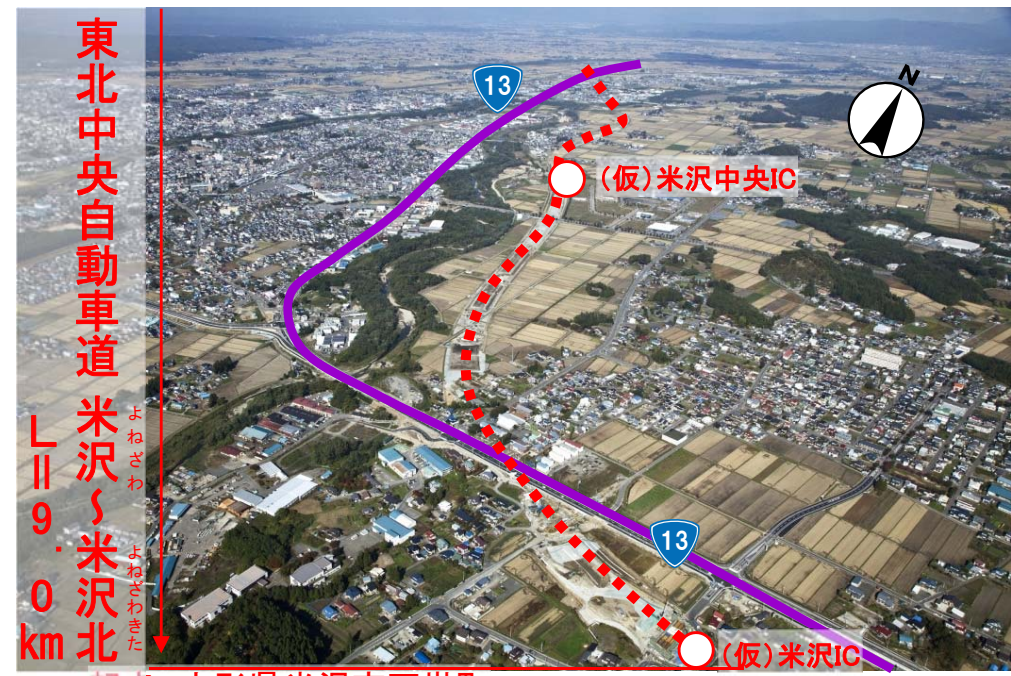
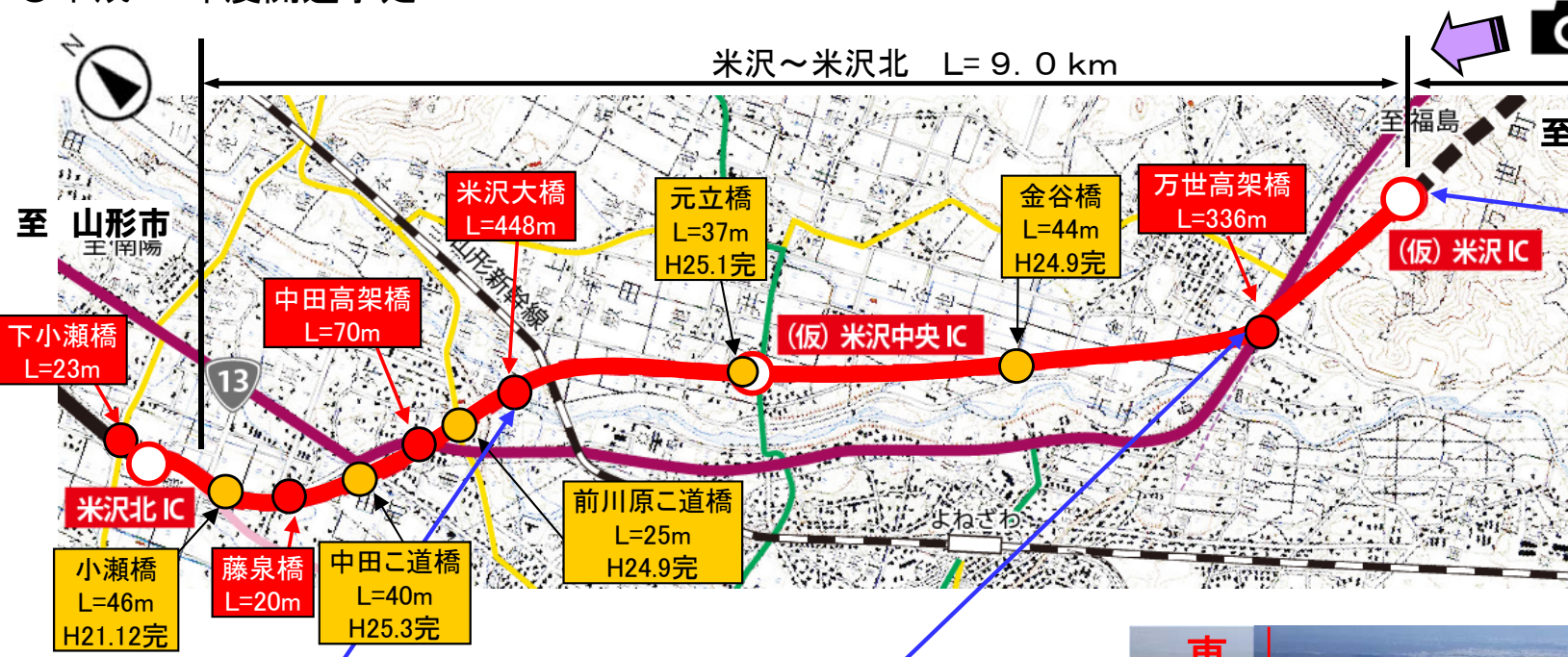
【前回再評価時の計画交通量】 東北中央道(米沢～米沢北)=7,200台/日

4. 事業の進捗の見込みの視点

- H25年度は、調査(道路設計)、用地買収、工事(改良工事、橋梁工事)を推進する
- 平成29年度開通予定

平成25年7月末現在

施工中
竣工済



起点 山形県米沢市万世町

5. 事業の必要性に関する視点（事業の進捗状況）

○事業採択時より再評価実施までの周辺環境等の変化

- ・平成24年度 川西バイパス事業化(山形県)、(仮)米沢中央IC連結許可(山形県)
東南置賜地区(米沢市)交流連携型地域整備計画策定(山形県・米沢市)
- ・平成25年度 米沢高畠線4車線化事業化(山形県)、米沢市道の駅基本構想検討委員会発足(米沢市)

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

○購入土から公共残土の受け入れへの切り換え

7. 地方公共団体等の意見

○山形県知事の意見

東北中央自動車道は、格子状骨格道路ネットワークを形成する重要な路線です。本路線は、東日本大震災からの復興に大きく貢献することが期待され、災害時の広域的代替機能の強化、及び、東北地方の発展を図るためにも重要で、必要不可欠であります。

また、本県において、平成21年度に策定した「山形県道路中期計画」においても、“高速道路・地域高規格道路の整備促進”は、最優先する施策としており、当該事業を継続され、早期完成を目指し、着実な予算の確保をお願いします。

また、以下の団体等から、東北中央自動車道(米沢～米沢北)の整備促進について要望あり

- ・福島市・米沢市・相馬市・伊達市議会連絡協議会 ・山形県町村会長 ・山形県町村議会議長会
- ・置賜総合開発協議会 ・山形県商工会議所連合会 ・山形県開発推進協議会 ・山形地区国道協議会
- ・山形市長 ・山形市議会議長 ・米沢市長 ・南陽市長 ・南陽市議会議長 ・高畠町長 ・天童市長

8. 対応方針（原案）

事業継続

（理由）高規格幹線道路ネットワークを形成し、地域産業の振興や国道13号における交通混雑の緩和、地域医療活動支援等を図るためにも早期整備の必要性が高い